

「伊勢湾台風」から60年

NPO法人 愛知県防災士会の会員の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は、愛知県防災士会に対してのご支援とご協力に感謝を申し上げます。

今年の9月26日は、多くの死者・行方不明者を出した伊勢湾台風（台風15号）の上陸から60年を迎え、TV等では特別番組が放映されました。特に当時の被害状況を映した白黒写真をAI技術により「カラー写真」にして、より鮮明に映し出し、その被害状況の大きさが再確認させられました。

なぜ、この様に被害が大きくなったのかを聞くと、貯木場に保管されていた輸入ラワン材が高潮により堤防を崩し、木造住宅を壊し多くの犠牲者が出た大きな要因の一つと言われています。また、もう一つの大きな要因は、現在ほど気象(台風)に関する情報が不足し、避難等をする時間が少なかったことです。

伊勢湾台風の被害により「日本の防災の出発点」（災害対策基本法）の制定に至ったことを改めて理解しなければならないと思いました。

今年9月9日に東京湾から千葉県にかけて上陸した台風は同じ15号、伊勢湾台風を超える最大瞬間風速57.5メートルを記録し、街中では電柱が軒並み倒れ、送電用の高圧鉄塔等も倒れ、長期間にわたり停電が続くと共に、民家の崩壊等多くの被害が出たことにより伊勢湾台風の記憶と重なります。

今後、発生する台風は、より大きな勢力を維持したまま上陸する可能性が高いと研究者は警鐘を鳴らします。

自然災害は、これからも発生します。愛知県防災士会は、少しでも多くの方に災害の怖さ・危険度等、災害対策をお伝えし、減災の一助になるような活動をしてまいりたいと思います。

皆様のご支援とご協力をお願いします。

参考：過去9月26日に上陸した台風

- ・1954年「洞爺丸台風」
- ・1958年「狩野川台風」
- ・1959年「伊勢湾台風」



NPO法人
愛知県防災士会
理事長 寺島一徳

・ ・ 多様化する災害に備えましょう ・ ・

令和の年を慶賀する中で、今年は全国各地において特に風水害による災害が多く発生したことは、記憶に新しいところです。

台風 15 号による想像したことのない強風により多くの家屋が全半壊を含め 13,000 棟にも被害が及びました。

また、併せて送電線の鉄塔（2 基）、電柱（推定 2,000 本）の倒壊、損傷、山林の倒木による送電線の断線事故により、房総半島全域にわたり大規模停電となりました。

過去に例のない被害であり不眠不休の復旧にも関わらず長期に亘る停電は、残暑の厳しい中で市民の生活に大きな影響を及ぼしました。（主に病院、介護老人福祉施設）

唯一、住宅の修理費を特例として国費で支援されることになりましたことは、被災者への復旧への大きな励みとなりました。



NPO 法人
日本防災士会 参与
愛知県防災士会 理事
常任顧問 保坂 松雄

・ ・ ・ ・ 近年の主な自然災害の発生推移 ・ ・ ・ ・

内 閣 府

年 度	地震、津波	風水害	雪 害	火 山	その他	計
令和元年	3	8	0	0	0	11 (9 月現在)
平成 30 年	4	5	3	3	1 (土砂災害)	16
平成 29 年	4	5	5	1	0	15
合計	11	18	8	4	1	42

風水害による電力施設の被災により生活の根幹をなす停電は、市民生活に多大な影響を及ぼしたについて、新たな視野で考えさせられる事態でありました。

昨年 9 月の北海道胆振東部地震が発電所の停止につながりブラックアウトとなりました。北海道全域（295 万戸）にわたり停電になり、発生から 45 時間後に復旧されましたが、市民生活に多大な影響が出ました。

日常、電気による生活を強いられている中で、未経験の災害の教訓として、如何に対処して行かなければならないか、考えさせられる課題であります。

災害大国日本では、災害と言うと地震を想定して語ることは多いですが、今回の様な業態の災害にも対処するため、知見を広めて行くことが求められます。

災害が多様化しております時宜に、遅れないよう日々研鑽に努めてまいりましょう。



■愛知県防災士会の活動（2019年5月～9月末）

災害時の対応・行動、あなたならどうする！？

～想定される難問、自らの問題として考える～

日時：令和元年5月30日(木) 午前11時～午前12時
会場：ポートメッセなごや 第7会議室
主催：名古屋国際見本市委員会、(公財)名古屋産業振興公社
目的：南海トラフ巨大地震の発生率が高まる今日の状況を踏まえ、また、自然災害が発生した時に生命を守る防災・減災対策を普段から会得する方法を、このセミナーを通して学ぶ。

参加者：約100名（16グループ、1卓6名～7名）

講師：羽田 道信 氏 藤田医科大学 医療科学部 特任教授

（NPO法人 愛知県防災士会アドバイザー、研修委員）

ファシリテーター

：NPO法人 愛知県防災士会（防災士 5名）

寺島 一徳、手塚 哲郎、原田 友子、宮澤 昌嗣、阿部 健二

朝から晴天に恵まれた5月30日、「第7回中部ライフガードTEC2019」の「防災・減災・危機管理展」が名古屋市港区の「ポートメッセなごや」で開催されました。

「防災・減災・BCPセミナー」に事前申込をされた参加者を対象に、住民・ボランティア・避難所運営委員等の立場から気象状況やボランティア、避難所・福祉避難所等の状況設定に対し、瞬時に判断しながら、自分ならこう判断するとか、こう行動するとか、二者択一で決断し、順番にその選択理由をコメントしていく実践・参画型セミナーが展開された。

所要時間60分と限られた時間の中で、今回は5つの設問に対して、全員の方々にご参加いただきました。

参加者は、講師の解説をしっかりメモをされたり、グループ内や講師から、何故そのカードを選んだのか、自分の思いを短時間で簡便にコメントしなければならないため、時間の経過のことも忘れ、真剣な取り組みとなりました。

設問に対して、ずばりこれが答えということは無いのですが、最終的に羽田講師から次の点について個々の解説がなされました。

- ・「気象庁」から発表される防災情報に対し関心と理解、そして状況判断をするための最新の情報を入手する。或いは、予め携帯電話、PC等に取り入れておく。
- ・ボランティアをする側の意思を尊重して、服装に適したボランティアに従事させる方法があることを想定し依頼する。
- ・万が一、ボランティア作業中にケガをされた場合、傷口を消毒するなどの処置をしっかりしないと破傷風になる危険性があるので要注意。
- ・ボランティアの場合、公正・公平な立場で行う場合と弱者・高齢者等を優先的に救済する方法を取らなければならない場合が出て来る。その時は、説明責任を果たし避難者の同意を得て行う必要がある。
- ・避難所では、要配慮者(高齢者、要介護者、難病の方、障がい者、妊産婦、乳幼児、アレルギー等の慢性疾患を有する者、外国人等)に配慮するための受付窓口を別に設けていることか

ら、そこで受付を行い、カウンセラーあるいは、ケア等をしてもらうよう依頼する。

また、症状により福祉避難所あるいは、施設・病院への入所の手配・手続きを依頼する。



机上にカードを出している参加者



講師の解説を聞き入る参加者

文責・写真：阿部 健二

名古屋市 緑生涯学習センター①

「災 害 へ の 備 え は 必 須」

－ 忘災で後悔しないために －

日 時：令和元年6月4日(火) 10:00～12:00

場 所：名古屋市 緑生涯学習センター 視聴覚室(3階)

主 催：名古屋市教育委員会 生涯学習課

参加者：16名 《緑区在住 公開講座申込者》

講 師：NPO法人 愛知県防災士会 防災士

保坂 松男 (理事・常任顧問)

ファシリテーター：6名

手塚 哲郎(副理事長・筆頭総括)

森 千代子(副理事長・兼 研修委員長)

加藤 和久(理事・兼 組織委員長)

原田 友子(理事・副広報委員長)

宮澤 昌嗣((理事・副研修委員長)

阿部 健二(理事・事務局長 兼 広報委員長)

冒頭、名古屋市緑生涯学習センターから、保坂講師の紹介を頂き、防災講演会を始めました。

今回の講演に際しまして、保坂講師から受講者の皆さまへ「防災・減災」とは、何かを判りやすく、そして、理解された内容を各種チャンネルへ広げて頂くことを願い、試行錯誤の末にまとめ上げました資料とパワーポイントを使い、途中、休憩をはさみながらも【別記】97コマの表や写真や図などに基づき、1時間40分ほどの説明を展開していきましました。



特に「日本列島は、地震の巣の上に乗っている」との避けられない現状を強調しつつ、避難所生活での過酷さを伝え、これからの「備え」について細かく説明を続けて行きました。

最後に質問を受け付け、「トイレ」と「原発」への不安についてお尋ねになられた参加者に対して、「トイレ」について、保坂講師から説明したのち、森研修委員長へバトンタッチし、「断水トイレ」と呼ぶ商品の有効性と使用方法を補足的に説明しました。次回6月18日に同センターにおきまして、愛知県防災士会によります防災実技講習会の際に「断水トイレ」の見本品と申込用紙をお配りさせて頂くことをお約束し、防災講演会を終了させていただきました。

しかし、終了した後も、3人の女性から熱心に質問をされた保坂講師は、「防災・減災」に対する緑生涯学習センターを介し、緑区の参加者の熱い思いを感じ取ることができたようです。



講師の説明に聴き入る参加者



「断水トイレ」の説明

【別 記】

《具体的説明内容》

災害とは

①地震・津波

◇海溝型地震

◇内陸型地震

◇世界の状況について

- ・世界の災害発生状況
- ・世界の災害を知る
- ・世界の地域別の被害の内訳
- ・世界で発生する自然災害の内容
- ・世界で発生した自然災害の被害額

◇地震、津波について

- ・日本の自然災害における死者・行方不明者数
- ・世界の地震の震源分布
- ・私たち日本は災害大国です
- ・日本プレートの状況
- ・日本列島周辺の地形
- ・日本周辺の震央分布
- ・日本列島は
- ・内陸型断層の種類
- ・プレートの動きについて
- ・日本列島を取り巻くプレート
- ・日本周辺のプレートと地震
- ・昭和年代で強度に起きた地震
- ・愛知県での主な地震



ファシリティテーターの面々

- ・忘れてはいけない教訓① 昭和東南海地震（海溝型）
- ・昭和東南海地震の震度状況
- ・名古屋市緑区周辺の震度5
- ・海溝型地震による津波の発生
- ・忘れてはいけない教訓② 三河地震(内陸型)
- ・三河地震の震度状況
- ・三河地震の死者の状況

②大雨・風水害

◇高潮、高波、波浪について

- ・世界的な強風の表現
- ・高潮、高波、波浪の定義
- ・愛知県の主な風水害
- ・忘れてはいけない伊勢湾台風
水没した住宅地(南区)
台風による被害の状況(南区)
避難する人々
屋根に必死にすぎる人々
- ・高潮で過去に大きな被害を受けた地域
- ・高潮の発生の要因
- ・～忘れない～ 自然との向き合い
- ・愛知県土の特質
- ・愛知県の断層①
- ・愛知県の断層②
- ・愛知県の断層③
- ・愛知県の断層④
- ・名古屋市の地形
- ・名古屋市の地形・地盤の特徴①
- ・名古屋市の地形・地盤の特徴②
- ・名古屋市周辺の断層①
- ・名古屋市周辺の断層②
- ・名古屋市周辺の断層③
- ・名古屋市のゼロメートル地域
- ・濃尾平野(名古屋市周辺)は日本最大のゼロメートル地帯
- ・名古屋市の水害時の避難行動目安
- ・名古屋市緑区の生い立ち①
- ・名古屋市緑区の生い立ち②

◇災害のリスク

- ・災害のリスク・内水氾濫
- ・災害のリスク 予想される液状化現象
- ・災害のリスク 過去の地震からした震度予想

③忘れない自然との向き合い

- ・忘れられない郷土の災害①
- ・忘れられない郷土の災害②
- ・忘れられない郷土の災害③
- ・決して忘れてはいけない ～災害の教訓～
- ・伊勢湾台風の市内の浸水域

- ・名鉄 鳴海駅の浸水状況
- ・東海豪雨の被害の内容
- ・東海豪雨の市内の浸水域
- ・東海豪雨災害 浸水地域と家屋との罹災分布
- ・東海、東南海地震の震度分布
- ・今後予想される地震①
- ・東海地震に対する地震防災対策強化地域の指定
- ・愛知県の被害想定
- ・東海・東南海地震被害想定
- ・今後、予想される災害②
- ・今後予想される地震② ～南海トラフ巨大地震～
- ・東海地震・南海トラフ巨大地震は来るのか
- ・南海トラフ巨大地震の被害想定
- ・～津波の発生～
- ・～一部割れ・反割れ・ゆっくり滑りの被害想定～
- ・～被害の全貌と避難の在り方
- ・愛知県の被害想定
- ・愛知県震度想定
- ・震度の階級と震度による家屋の倒壊
- ・南海トラフ巨大地震と東海、東南海地震との関係について
- ・「前震」が観測された際の臨時情報
- ・～臨時情報を信じない～
- ・新たに予想される地震 ～東北沖 M7級「確率90%」～
- ・日本列島は地震の巣である
- ・災害への日頃の備え
- ・救える命を増やすために
- ・災害に備えて
- ・災害時、避難への対応
- ・イザという時のために
- ・イザという時の助け合い
- ・自分の命は自分で守る

最後に

～忘災は防災の敵である

防災の啓発は永遠～



災害は必ず忘れた頃に襲ってくる

～鎮魂・被災者の痛みを忘れない～

「ロープで助かる命がある」

～ロープ ワークの技術～

日 時：令和元年6月18日(火) 10:00～12:00

場 所：名古屋市 緑生涯学習センター 視聴覚室(3階)

主 催：名古屋市教育委員会 生涯学習課

参加者：18名 《緑区在住》

講 師：NPO法人 愛知県防災士会 防災士
てづか てつお

手塚 哲郎 (副理事長・筆頭総括)

ファシリテーター：6名

保坂 松男(理事・常任顧問)

森 千代子(副理事長・兼 研修委員長)

加藤 和久(理事・兼 組織委員長)

原田 友子(理事・副広報委員長)

宮澤 昌嗣((理事・副研修委員長)

阿部 健二(理事・事務局長 兼 広報委員長)

手塚講師は、冒頭の挨拶の中で大阪北部地震のことに触れ、『大阪北部地震が起きてから今日で1年を迎えます。当時の記憶は、脳裏に焼き付いているものの、時間が経つにつれて、その記憶も薄らいでいきます。過去に起きた地震を風化させないために、これからも、防災・減災に一人ひとりが心がけていくことが大切』と熱い思いを参加者へ伝えました。

また、『ロープワークの基本は、災害時の救出・救助アイテムとして有効。しっかり基本を学び、日常の生活で繰り返し実習すれば、ちょっとした特技となり、災害時や緊急時は命を救う道具となるのがロープであり、これがロープワーク』と基本と効果を説き、次に『ロープは強く結べば、良いというものではなく、「結びやすく解けにくい」(張力がかかった時に解けない)、そして、「解きたい時には解きやすい』とロープワークの特性を解説しました。

次に、実技講習に入る前に、前回(6月4日)の防災公開講座の時に参加者の皆様へお約束した「断水トイレ」のサンプルを事前に席上へ配布し、各自お持ち帰り頂くよう森副理事長(兼研修委員長)から申込と使用方法等を交え説明いたしました。また、販売用として「断水トイレ」2箱をお持ちしたところ、グループでシェア購入され、即決で完売しました。

引き続き手塚講師から『今日は、7種類【別記】のロープワークを皆さん方にマスターして頂きたい、一つ一つ判



りやすく進めて行きます。全部マスターするのは難しいという方におきましては、一つだけでも、ご自分のものにして頂きますよう頑張ってください。』と参加者を励まし、ロープワークの実技講習を始めていきました。

一つずつ丁寧にロープワークの実技を進めていきましたが、個人差が徐々に出てきましたので、それをカバーするため1人～3人くらいの参加者に対して、講師のほかにファシリテーターが手ほどきをしていきました。

参加者が真剣に取り組まれました結果、努力の甲斐が有った方、無かった方、いろいろでしたが、冒頭に講師から説明しました日常生活におきまして繰り返し練習を積んで、やり方を忘れないで欲しいとの願いを込め、2時間のロープワーク実技講習の時間を終了させていただきました。



真剣にロープワークを講師とファシリテーターから習う参加者の皆さん

【別 記】

1. 胴もやい結び

自分や負傷者などの身を守るために、ロープを身体に結ぶ方法。簡単に結べて強度が高く、簡単に解くことができることから、「結びの王様」と呼ばれている。ロープの元が引っ張られているときには、片手で結ぶことができる。

2. 連続止め結び

連続的にこぶをつくることで、手掛かりや滑り止めとなり、階下への避難用ロープとして使うことができる。別名、ふし結び。

3. 蝶結び

ロープの中間に輪をつくることができ、手や足を掛けられるように連続的につくと、階上へ避難用ロープとして使うことができる。

4. 鎖結び

三重に編み込んでいくことで、強度を高めることができる。軟らかくて長いロープの収納にも適している。

5. 巻き結び(クローブ・ヒッチ)

古くから船乗りたちが使っていた古典的な結びでロープを巻き付けて物体に止める。二つの輪をつくって結ぶ方法。ロープの途中で輪を二つ作り、一方の輪をもう一つの輪に重ねて物体に通す。輪の作り方や重ね方を誤ると結べないので、しっかり覚えておきたい。

6. ねじり結び(ティンバー・ヒッチ)

災害時に転倒した木などの移動処理する際に活用。

7. 引きとけ結び

引きとけ結びは、その名のとおり引くと解ける結び方。便利でしかも簡単なので、日常でもよく使われる。

《参 考》 ロープの結び方につきましては、You Tube（ユー チューブ）で、検索しますと絵や動画で見ることができます。

文責・写真 阿部 健二

名古屋市 緑生涯学習センター③

いざというとき助けるために

— 命を守る応急処置の技術 —

日 時：令和元(2019)年7月2日(火) 10:00～12:00

場 所：名古屋市 緑生涯学習センター

主 催：名古屋市教育委員会 生涯学習課

参加者：15名 《緑区在住》

講 師：NPO 法人 愛知県防災士会 防災士

森 千代子 （副理事長・兼 研修委員長）

ファシリテーター：6名

寺島 一徳(理事長)

手塚 哲郎（副理事長・筆頭総括）

保坂 松男（理事・常任顧問）

原田 友子（理事・副広報委員長）

宮澤 昌嗣（理事・副研修委員長）

阿部 健二（理事・事務局長 兼 広報委員長）

今年度最後の緑生涯学習センターでの防災講習会を迎え、シリーズとして三つのテーマに基づいて講演並びに実技演習を以下のとおり行ってきました。

- ① 6月 4日(火) 10:00～12:00 講師：保坂 松男「災害への備えは必須 ～忘災で後悔しないために～」公開講座
- ② 6月 18日(火) 10:00～12:00 講師：手塚 哲郎「ロープで助かる命がある～ロープワークの技術～」実技講習

平成28(2016)年4月14日～16日に発生した熊本地震による被害状況を写真に収め、パネルにした物を正面ホワイトボードの棚の部分から窓際等わたり配置し、参加者等の視覚へ地震の怖さ、悲惨さを訴えるためにパネル展示を森講師が行いました。

また、実際に熊本へ出向き被災状況を目の当たりにされた森講師が感じたこと、また、被災者へのいたわりを、参加者の皆様へ少しでも理解して頂こうとお伝えしました。

次に、慌てずに救急車を呼ぶには、何回も練習をつんだりしないと動揺せず冷静沈着に行動することは、大変難しいことを説き、実際に救急車を呼ぶ際の注意事項とやり方を説明しました。

そのあと、AED トレーナー並びに胸骨圧迫をされたことのない参加者を中心に実技演習に入って行きました。

実際、見るのと実技演習をするのとでは、大きな開きがあることを、体験しながら初めてチャレンジをされたことによって、新たな感覚で学ばれた参加者が多いと感じました。

そのあと、講師は「気道の確保」、「人口呼吸」、「心臓マッサージ」、「電気ショック」の順番にやって見せ、一通りの流れを参加者に教え、人の命を救う大切な「胸骨圧迫」の感触を理解して貰うために、参加者全員にやって頂きました。

途中休憩の時間を挟み、後半は、三角巾を使っの応急手当実習の時間に割り振ることとし「たたみ三角巾の作り方」、「腕を吊る」、「膝を包む」、「頭を包む」方法のほか、新聞紙を加工した添え木を腕や足に巻き付けて骨折患部の応急処置についてやり方を教えました。

限られた時間内に盛りだくさんの実習があるため、森講師は時間をかけて、参加者の皆さんに覚えて頂こうと目配り気配りをしながら2時間の実技講習を終えました。



森 講師の紹介



胸骨圧迫のやり方の手ほどき



胸骨圧迫の実体験



三角巾の使い方の手ほどき

文責・写真：阿部 健二

2019 年度 幸町区自主防災会 避難所運営訓練の実施

— 避難所運営に大切な避難者役割分担について —

日 時：令和元(2019)年7月28日(日) 9:00～11:30

場 所：愛知県稲沢市幸町区集会所

主 催：幸町区自主防災会

参加者：幸町自主防災会会員86名(子供5名、大人81名)

講 師：NPO 法人 愛知県防災士会 防災士

防災アドバイザー 広瀬 一行

ファシリテーター：3名

森 千代子(副理事長)(兼 研修委員長)

高木 吉貴(防災士)

阿部 健二(理事)(兼 事務局長兼広報委員長)

裸祭りで有名な、名鉄「国府宮駅」を降りて、南へ15分ほど線路傍と広々とした田園風景を見ながら歩き、その先に広がる住宅街の一角に今日の「避難所運営訓練」会場となる真

新しい1戸建ての「幸町区集会所」へ辿り着くことができました。

午前9時には、幸町区自主防災会会員の81名の方に更に5人のお子さんが加わり、愛知県防災訓練基準の8班（①総務班・②広報連絡班・③食料・物資班・④施設管理班・⑤要配慮者支援班・⑥保健・衛生班・⑦屋外支援班・⑧ボランティア班）に分かれ、二部屋からなる広いスペースがぎっしりと会員によって埋め尽くされました。

その他に避難所の役割分担に関連し、進行役、或いは、アドバイザー役の稲沢市危機管理課 鈴木主幹ほか2名、防災ボランティア稲沢 永野副会長ほか2名、地元NPO法人愛知県防災士会 広瀬防災アドバイザーほか2名が加わり、個々の班ごとに「避難所で起こりうる具体的提案問題」に対して、どのように班員は、考え対処するのか、また、課題・問題点についても意見を出し合いました。



間仕切りの無い部屋で意見交換をしたことから、お互いの声が干渉し合い声のボリュームは徐々に上がり、冷房を22度に設定していても熱気は増すばかりでした。

スケジュール的に、班の中で持ち時間1時間内で数種類の具体的提案問題を討議し、まとめて発表するまでに至り、各班長さんによる取りまとめ発表がなされました。

発表の中には、普段からご近所との付き合いを大切に、幸町区全住民の見える化が進むことを願っていると本心から申ししていました。

そして、班長さんの取りまとめ結果発表が終わる都度、広瀬防災アドバイザーから「これが答えということでは、無いのですが」と前置きをされ、それぞれの班ごとにコメントをされました。

最後にNPO法人愛知県防災士会、市の危機管理課及び防災ボランティア稲沢の代表者から、それぞれ挨拶があったのちに、参加者の皆さんへ「防災お土産」を手渡し、2時間以上に亘る有意義な「稲沢市幸町区 避難所運営訓練」を終えることができました。

今回の「避難所運営訓練」におきまして、今後、幸町区全住民の方に対し八つの班の情報並びに行動規範の共有がなされ、仮にどの班に就かれても対処できるような体制を整えることやマニュアルにして各家庭に配布されることが望まれます。

また、この様に幸町区自主防災会の縦系に稲沢市の危機管理課、防災ボランティア稲沢及びNPO法人愛知県防災士会という二つの異種防災ボランティアの横系による防災・減災という布が編まれていくという実感は、あまり例を見ないことであり、今後も一人でも多くの尊い命を守り、助けたい人を助ける自助による幸町区の皆様による防災・減災にけるお手本の輪がいろいろな形で各家庭に広く浸透されていくことを願ってやみません。



文責・写真 阿部 健二

岩高祭で防災・減災啓発

～ 防災ブースでの実技・実演指導 ～

開催日時：令和元年9月4日（水） 10:00～14:30

場 所：愛知県立 岩倉総合高等学校

責 任 者：NPO 法人 愛知県防災士会

原田 友子（理事兼副広報委員長）

スタッフ：森 千代子、加藤 和久、石垣 辰夫、倉知 彰治、阿部 健二

参 加 者：84名（生徒・職員・保護者）

開催当日、午前8時30分ころから役割分担により車で集合した防災士達は、それぞれが機材を持ち込み、当高校から割り当てられた教室へと搬入しました。前日には、先生と生徒さんと森 千代子防災士が力を合わせ、机を並べ変えて陳列棚にし、非常食の試食用テーブルとイスを三卓ほど用意されたほか、不要な机やイスは教室の外に出して頂いていたお陰で、1時間ほどで教室は「防災ブース」へと早変わりをいたしました。

その他に、「防災ブース」への誘導用旗を校舎1階と3階と「防災ブース」の教室の前に立て準備万端整え、岩高祭が始まる午前10時を待つのみとなりました。

それでは、午前10時になりましたので、『皆様ようこそ、防災ブースへお越しくださいました。本日のご案内役の原田友子と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。』

今年は、「防災ブース」を、四つのコーナーに分けました。①応急救命の実技、②耐震器具、非常持ち出し袋（リュックの中身）・自宅に備える防災用品の展示（トイレ対策）、③ロープワークの実技、④間仕切り用の衝立に熊本地震等の被災地の様子の写真パネルを30枚ほど貼り出し、その奥に非常食試食コーナーを設けました。

『続きまして、各コーナーの内容と「防災ブース」を通じまして、感じたことをご説明します。』

【① 応急救命コーナー】

2体の人形とAEDトレーナーを床に置き「心肺蘇生法」の実技を体験出来るコーナーにしました。

「あなたは119番！ あなたはAED！」と周りに居る

人へ大きな声で助けを求め、30回のリズムを連続3回、1分間に100から120回の速さで、胸が5cm

（小児の場合は、胸の厚さの1/3）沈むまで、しっかり 胸骨圧迫を体験する生徒さん

り胸骨圧迫を繰り返し行い、AEDによるショック療法をガイダンスの音声に従って、

ひたすら救急車が来るまで、し続けることを説明。併せて、意識が無く、呼吸や心臓が止まった症状の時に応急救置で人命を守ることができる感動的な説明をしました。

最初は、声の小さかった女子生徒さんも大きな声で助けを呼び掛けることが出来るよう



「防災ブース」への入り口



「防災・減災体験コーナー」の表示



応急救命コーナー等



になりました。また、一部の生徒さんは、今年の夏休みを返上して、赤十字で講習を積んで、得意げに実践してくれた生徒さんもあり、熊本地震で若い人たちが率先して活躍されたという話を思い出し、『人が倒れていたら助けます！』と生徒さんから力強い言葉をもらい、教える側として頼もしくも、嬉しくも感じました。

【② 耐震等展示コーナー】

地震の時の備えとして命を守るためには、阪神・淡路大震災の教訓に学んだ家具の下敷きにならないための耐震対策、家具の固定化と火災を防止するために振動でブレーカーが落ちる装置の取付けが必要になります。ホームセンター等で購入できる器具を取付けた見本の展示とトイレ対策として簡易型塩化ビニール製ドラム缶トイレ（家の断水時、使用可能な方法のアドバイス）の展示。その他に、家での備蓄品と非常持ち出し袋（リュック）の中身の展示をしました。

【③ ロープワークコーナー】

ロープワークの実技を始める前に「生存者が2階から飛び降りた」という痛ましい事例を振り返り、ロープがあったら、もっと安全に地上へ降り、命が助かったかも知れないことを話し、一本のロープを備えておくことの大切さを説明しながらロープワークの実技・体験をして頂くコーナーです。

【④ 非常食の試食コーナー】

お湯を入れて4分待つと美味しいラーメンの出来上がり。試食して頂きました生徒さん方には、5年保存で「1食 242キロカロリー」と満足げな味に備蓄の大切さと必要性を実感して頂きました。

総体的に、このコーナーでは、家で安全に1週間は暮らせるように水と食料を備蓄し、トイレの対策も併せて考えて貰うことが出来ました。



耐震と家具の固定の説明



簡易トイレと凝固剤の説明



ロープワークの説明と実技



男子生徒さんによる胸骨圧迫



非常食を試食する生徒さん



胸骨圧迫を体験される先生



熊本地震の写真パネルを見る生徒さん

以上で「防災ブース」の四つのコーナーの説明を終わらせて頂きます。
今回の「防災ブース」を通じまして、強く感じたことは、生徒さんだけでなく、多くの先生方にもご参加頂き、ほんの少しでも NPO 法人 愛知県防災士会がお役に立てたのかなとの印象を受けました。

文責：原田 友子、写真：阿部 健二

いざという時 助けるために

— AED を用いた心肺蘇生と応急手当 —

開催日時：令和元年9月19日(木) 午後2時50分～午後4時20分

場 所：岡崎市民会館 大会議室

講 師：応急手当 森 千代子 防災士（副理事長 兼 研修委員長）
ロープワーク 手塚 哲郎 防災士（副理事長 兼 筆頭総括）

スタッフ：寺島 一徳、原田 友子、小林 春代、阿部 健二

参 加 者：66名（ウッド・アート・スタジオ様及び建設協力業者様）

6月9日（日）に主催者の方と第1回目の打合せを岡崎市の会社を訪問して実施することが出来ました。それから数回と無く詳細にメールにより打合せを積み重ねて参りました。

9月19日（木）の開催当日は、午後2時頃に集合するように予定を立て講師並びにスタッフが到着しました。

今回の防災講習会の流れは、午後2時50分にオリエンテーションから始め、まず参加されました皆様へ本日の演習内容と取り組み方法の説明を行いました。タイムスケジュールにより立ち位置、つまり講習内容が違ってくことを予め認識して頂いた上で、移動をお願いする方式を取らせて頂きました。

次の時間は、前列半分に座っている方は、そのまま座学で「応急手当の演習」を30分、後列半分に座っている方は、後方のスペースで「胸骨圧迫とAEDの使い方の演習」を30分行って頂きました。

30分経過と同時にホイッスルを鳴らし、前列と後列のグループが入れ替わり、後方スペースで「胸骨圧迫とAEDの使い方の演習」をされた参加者は「応急手当の演習」をするために前列で座学し、一方、「応急手当の演習」をされた参加者は、後方スペースへ移動して頂き、「胸骨圧迫とAEDの使い方の演習」を30分実施して頂きました。



オリエンテーションを行う森講師



応急手当を体験される参加者



胸骨圧迫と AED の操作による心肺蘇生方法について、講師から「周りの安全確認」⇒「反応の確認」⇒「助けを呼ぶ（人手、119 番通報と AED の依頼）」⇒「呼吸の確認」⇒「胸骨圧迫（胸の真中が 5 cm 沈むまで・1 分間に 100～120 回の速さ、共通）」【小児（1 歳～中学生くらいまで）は、胸の厚さの約 1／3】・【乳児（乳頭を結んだ少し下・指 2 本・胸の厚さの約 1／3 沈むまで圧迫】⇒AED（電源を入れる、音声メッセージに従ってパッドを貼る（注意：汗や水気は拭き取る、貼り薬ははがす、金属はとりはずす、心臓ペースメーカーから離してパッドを貼る）⇒心肺蘇生（胸骨圧迫と AED）の継続という一連の説明をした後に参加者全員が実際に胸骨圧迫と AED の演習操作を行いました。



胸骨圧迫中に AED 到着



胸骨圧迫中にパッドを貼る工程

最後に、参加者全員が座れるように机を元に戻し、手塚講師からロープワークの実演を 20 分間行いました。

オープニングとして、初めから鎖結びにしておいたロープを参加者全員に配付し、「ロープは、結びやすく解きにくい。そして、解きたい時には、解き易い」というロープの特性を理解頂くための演出をしました。



ロープワークの手塚講師

次に「蝶むすび」につつまして演習を行い、これは、ロープの間に等間隔に輪を作ることにより、手や足を掛けられるようにして、階上へ避難する時のロープワークを説明。続いてのロープワークは、「連続止め結び」を行い、これは、連続的に結び目を作り、こぶに手が掛かり滑り止めの役割をなすため、階下への避難用ロープとして有効との説明をして、ゆっくりと演習を行うことから、ロープワークは苦手出来ないという人を救済する教え方により男性陣に「もっと長く教えて欲しかった」と好評を頂きました。



ロープワークを実践する参加者

文責・写真：阿部 健二

■スキルアップ研修会

「普通救命講習 1」を受講して

—私たちが救える命がある—

日 時：令和元年 6 月 25 日（火） 13：30～16：30
場 所：中村消防署 別棟 2 階 講堂
講 師：中村消防署 市江 浩明 様（消防司令補）ほか署員 2 名
参加者：NPO 法人 愛知県防災士会 8 名
A グループ 高木 吉貴 ・ 伊藤 知恵
手塚 哲郎 ・ 原田 友子

6月25日（火）、晴天で30℃を超える真夏日になると天気予報が教えてくれたので、熱中症を心配して水入りペットボトルをリュックに詰め、中村消防署へ向かった。

定刻の午後1時30分に防災士8人がそろったので、市江消防司令補様により講習を始めて頂きました。最初の10分ほどはDVDを見ながら、本日の講習の流れとか予備知識となる内容を習得し、続いて資料を片手に質問形式の座学へと移行しました。

その中で、名古屋市内の救急車は、何両あると思いますか？との問いかけから解説をして頂き、市内16区ある中で車両数は、43両。その他に震災などのための対応車両は、1区に1両の予備車16両と併せ合計59両により対応されているとの説明に、車両数が多いか少ないかは、出動回数などにより簡単に判定づけることは難しいにしても、単純に1区4両を保有していない状況に自分も含めて、名古屋市民は、置かれているということでした。

続いて、依頼された場所に救急車が到着するには、どれくらいの時間がかかりますか？という投げかけに5分とか9分と答える方がいましたが、結局、正解者は、残念ながらおらず、正解は約6～7分かかるということでした。ということは、突然死の主な原因に、成人の場合、急性心筋梗塞や脳卒中が挙げられ、万が一そういった方の初期症状にいち早く気づき、救急車を要請したり、AEDを使ったりして、医療機関へ治療してもらうまでの間、私たち防災士が早く応急手当を開始すれば、救命の可能性が2倍にも増加するという統計的な数字につなげることもできるし、何と言っても尊い命を救えるという、私たちの原点に辿り着くことができます。

今回の講習の大半を「応急手当のながれ」を会得するための時間に費やし、
①反応の確認【倒れている人の反応の有無を確認します】⇒②助けを呼ぶ【反応が無ければ、119番通報とAEDの依頼】⇒③呼吸の確認【胸やお腹の動きを見て、呼吸があるか確認します】⇒呼吸が有る【様子を見ながら応援、救急隊を待ちます】⇒呼吸が無い【胸骨圧迫30回】⇒④胸骨圧迫【胸の真ん中を強く（約5cm）、早く（100～120回／分）絶え間なく圧迫します】⇒⑤人工呼吸【気道を確保し、軽く胸が上がるように人工呼吸を2回行います※感染防護具が無い場合や人工呼吸をためられる方へは、しなくて良い】⇒⑥AEDの到着【電源を入れ、音声メッセージとランプに従います】⇒⑦電気ショック【『ショックボタンを押してください。』という音声メッセージが流れたら、点滅ボタンを押します】⇒⑧応急手当の継続⇒④胸骨圧迫へ①から⑧までのステージを一人で実習したり、ペアで実習したりして積み上げていき、一連の流れを一括とし、マスターしていく講習内容でした。



『大丈夫ですか』と大きな声かけ



資料説明をされる市江講師

その後は、「反応を確認」する際は、周りの安全を確認し、両肩をたたき、大きな声で呼びかけるとか、助けを呼ぶ時も大きな声を出し、『あなたは、意識の無い人が倒れているということを伝え救急車を手配してください。あなたは、AEDを持ってきてください。』と大きな声で役割を明確に伝達するなど、「電気ショック」から「応急手当の継続」に亘る、きめ細かい重要なポイント



の復習を行い、最後に気道遺物の除去方法とファーストエイド（出欠時の止血法、傷病者の体位と移動）の資料説明を頂き、3時間を余すことなく有意義な講習とさせて頂きました。

【絶えず学習が必要。継続は力なり！】

文責・写真：阿部 健二

スキルアップ研修会

災害時における地域課題の取り組み

～ 避難所・避難生活への備えと見直し ～

日 時：令和元年8月24日（土） 13：30～15：10

場 所：東特会館 4階 会議室

講 師：防災士 羽田 道信 氏

NPO 法人 愛知県防災士会 防災アドバイザー、
研修員（藤田医科大学 医療科学部 特任教授）

参加者：47名

開催冒頭、NPO 法人愛知県防災士会 寺島理事長から本日、参加された会員の皆様へ、平素の活動への感謝と今後の活動理念への基礎学習としてのスキルアップ研修と捉えて頂く機会とされたいと挨拶を述べた。

次に司会進行役の森副理事長（兼研修委員長）から本日のスキルアップ研修を担当される



挨拶をする寺島理事長

羽田講師を紹介し、スキルアップ研修の本題へとバトン講師へ繋いで行きました。

羽田講師は、防災士の資格を取った当時の過去を振り返り、自我の目覚めから「自分に出来る活動は？」を追及しつつ、非営利活動法人日本防災士会会員の活動理念に触れ、自分が導かれ原動力となっていることを改めて解説し、今日に至っていることを会員の皆さんへ理解・浸透して頂くよう説明をされました。

また、地域防災計画と地区防災計画の違いや防災マニュアルが膨大な資料となっている現状と矛盾点にも言及され、普段から確認する習性を身に着けることの重要性と災害からの教訓に学び、防災マニュアルを実態に即し、年2回改定している地域があることも知っておく必要があると紹介されました。



スキルアップ研修の羽田講師

防災訓練は、行政や地域、会社、企業等において、機会に合わせ啓発活動を進めていく機運が高まる中において、「防災運動会」と名打って、防災に関する競技の種目を取り入れている地域が、成績や結果を重んじるがゆえに、間違った訓練方法を身に着けてしまうという落とし穴があることに気づかされました。

更に、「阪神・淡路大震災」と「東日本大震災」、「熊本地震」の過去に発生した地震による直接死と間接死の割合を比較され、間接的な要因により亡くなられた方が多いという現状を認識し、避難所と避難生活の重要性を説かれました。

また、最後に羽田講師が10月6日に豊明市の避難所運営委員会の発足並びに避難所開設・運営訓練プログラムに携われた内容を一覧表により説明され、運営班を8班に分け、実

際に避難所運営訓練を実施することとなるわけですが、仮に南海トラフ巨大地震による罹災、被災者となる場合を想定して、8班に所属する役割分担があったとしても、要員配置上、どの班に所属しても、その班の仕事、ボランティアをこなせるように普段から訓練を積む必要があるとの説明に共感を覚えました。

【パワーポイント資料】

- 表紙 災害時における地域課題への取り組み
～避難所・避難生活の備えと取り組み～
- 日本防災士会の活動理念
- 積極的に取り組む事項
- 防災計画の体系（内閣府）
- 地域防災計画
- 地域防災における課題事例
- 避難所単位で地域防災を考える



スキルアップ研修模様

- 避難所運営委員会
- 避難所運営委員会の設立
- 別紙資料
 - ・避難所開設・運営訓練（リーダー養成）プログラム
 - ・中央小学校区避難所運営委員会組織及び運営班
- 防災士認証者・会員数
- 一防災士として

文責・写真：阿部 健二

① 今後の出前講座の予定

NO	主催者	講座名	演 題	開催場所	開催日時
1	阿久比町役場（阿久比町・東浦町合同）	防災リーダー養成講座	・防災の基礎について	阿久比町勤労福祉会館（80名）	令和元年 10月19日（土） 10:00-11:30
2	名古屋市教育委員会	公開講座	・まずは地震から自身を守る ～自助の大切さ～	名東生涯学習センター視聴覚室（54名）	10月29日（火） 10:00-12:00
3	ドレミの会（腎移植後の患者の会）	防災講演	・南海トラフ巨大地震 予知不能	愛知医科大学本館3階302講義室（60名）	11月17日（日） 9:30-10:30

4	愛知県立 碧南高等学校	防災講演	・防災・緊急に 役立つ日用品 活用法	碧南高等学校 体育館 (1,018名)	11月18日 (月) 15:20- 16:10
5	名古屋市 立牧野小 学校 P T A 保 護者会	家庭教育セ ミナー	・巨大地震か ら生き残るた めに～高めよ う自助力～	中村区牧野小学校視聴 覚室 (30名)	11月21日 (木) 10:00- 11:00
6	東海地方 郵便局長 協会	防災研修	・もしもに備 えて簡単クッ キング	つどいの館「和光」南 区柴田学区コミュニテ ィーセンター	11月23日 (土・祝) 9:30- 12:00
7	公財 愛 知県シル バーサー ビス振興 会	防災・減災対 策講座	・介護事業所 における防災・ 減災対策講座	名古屋商工会議所ビル	12月19日 (木) 13:30- 16:30

NPO 法人 日本防災士会を介し、または、NPO 法人 愛知県防災士会へ直接、各種の講座依頼が来ております。

会員の皆様には是非、講座のファシリテーターとして参加して頂きたい、新たな防災知識を学んで頂きますようご案内申し上げます。必ずやお役に立つものと思います。参加希望者は事務局までご連絡ください。

② スキルアップ 内部研修

月 日	時 間	内 容	開催場所等	担 当
令和元年 10月5日 (土)	8:30- 18:00	◎日帰りスキル アップ研修 旅行 ・改めて岐阜県 根尾谷断層 に学ぶ ・岐阜県支部と の交流	・根尾谷断層観察館等(45名) ・道の駅「織部の里」(55名) ・海津民族資料館(45名)	研修委員



・ ・ ・ 過去の教訓を語り継いで行きましょう。 ・ ・ ・

副 題 ： 次の世代に忘れることなく受け継ごう。

防災の日を前に九州地方に、50年に一度と言われる大雨による甚大な被害が出ました。
愛知県では、毎年9月1日正午から1分間、地震から身を守る運動『シェークアウト』を大村知事が県民運動として呼びかけました。

1. 姿勢を低く ⇒ 2. 頭を守り ⇒ 3. じっとする。



簡単な動作でありますので、日頃から身に付けておきましょう。

9月1日の「防災の日」は、昭和35年の閣議において制定され、9月1日の日付は、大正12年に発生した関東大震災にちなんだものであり、例年8月から9月初旬にかけ、台風の襲来が多い210日にも当たり「災害への備えを怠らないように」との戒めが込められております。

制定前年の34年9月26日に、東海地方を中心に伊勢湾台風が上陸し、史上、稀にみる甚大な被害をもたらし、多くの犠牲者が出ました。

防災の日が、台風シーズンに制定されたこともあり、台風や大雨によって防災訓練が中止になる事例が出ておりますが、今でも「防災の日」の9月1日にあわせて、全国各地で防災訓練が行われる日となっております。9月は、伊勢湾台風被害の発生から今年で丁度60年を迎えます。





・・・津波の浸水で屋根に逃れ、すぎる人々・・・・・・ボートにより救助される人々・・・

伊勢湾台風災害の教訓を受け国では、昭和 37 年に災害から国土を守るための対策に関する法律として「災害対策基本法」が制定されました。その後に、発生した阪神淡路大震災と東日本大震災を得て、三度の法改正を重ね、更に充実した法律として現在に至っております。

・・・明治以降の死者、行方不明者数 5, 000 名を超えた我が国の自然災害・・・

	災 害 名	発 生 年	死者、行方不明者 (名)
1	関東大震災	1 9 2 3 年（大正 1 2 年） 9 6 年前	1 0 5, 3 8 5 名
2	明治三陸地震津波	1 8 9 6 年（明治 2 9 年） 1 2 4 年前	2 1, 9 5 9 名
3	東日本大震災	2 0 1 1 年（平成 2 3 年） 8 年前	1 8, 4 2 9 名
4	濃尾地震	1 8 9 1 年（明治 2 4 年） 1 2 8 年前	7, 2 7 5 名
5	阪神淡路大震災	1 9 9 5 年（平成 7 年） 2 4 年前	6, 4 3 7 名
6	伊勢湾台風	1 9 5 9 年（昭和 3 4 年） 6 0 年前	5, 0 9 8 名

（国会資料頒布会）

今年は、地震災害に比べ、大雨による被害が多く発生しております。

例年 9 月～10 月にかけて台風に伴う大雨による災害が各地で発生しており、この地方でも平成 12 年 9 月 11～12 日に発生した東海豪雨災害では、名古屋地方気象台の予報でも予想できなかった豪雨となり、東海市で 9 月 11 日 19 時まで、1 時間 114mm 日降水量 492mm を記録し、各地で浸水被害が発生し、災害救助法が適用され伊勢湾台風以来の水害と言われております。

何時、発生するか判らない中で、特に大雨（豪雨）の時に下水が逆流することがあり、トイレ、風呂場、洗濯機などの排水溝から水が噴き出ることがあります。

ゴボ、ゴボといった異音が排水溝から聞こえて来ましたら、危険信号ですので注意して下さい。対策として次のページの図を参考にして下さい。



9月、10月は、台風の上陸、そして大気的不安定による予報を超える大雨、突風、雷が発生します。特にピンポイントの激しい大雨に注意し、備えておきましょう。

(参考文献：朝日、西日本、気象庁)

文責：防災士・保坂 松男

～日本防災士会会員の活動理念～

- 第1 日本防災士会会員（以下「会員」という）は、地域防災力の向上に努め、防災協働社会の実現に寄与することを活動の基本理念とする。
 - 第2 会員は、地域の防災活動に参画し、災害の事前対策、応急対策（復旧・復興活動を含む）等、地域の防災活動計画の策定・実施に関し、指導的役割を果たすものとする。
- そのために、次の事項に積極的に取り組むものとする。
- 1 会員相互のネットワークを構築し、協力関係を確立すること。
 - 2 地域防災活動のリーダーにふさわしい防災知識・技能の研さんに努めること。
 - 3 自治体との緊密な連携を図ること。

～NP0 法人 愛知県防災士会事務局からのお願い～

※参考 日本防災士会の防災士証を保有し、年会費(5,000円)を新たに納入されたい方は日本防災士会のホームページ【URL <http://www.bousaisikai.jp>】から「入会申込書」の手続きをしていただきますようご案内いたします。

日本防災士会会報 Vol. 64 (2019. 9. 17) の最終ページ「事務局だより」の「年会費について」をご参照ください。



NP0 法人 愛知県防災士会
広報委員会 編纂

〒453-0013

名古屋市中村区亀島1丁目11-14

東特会館内

